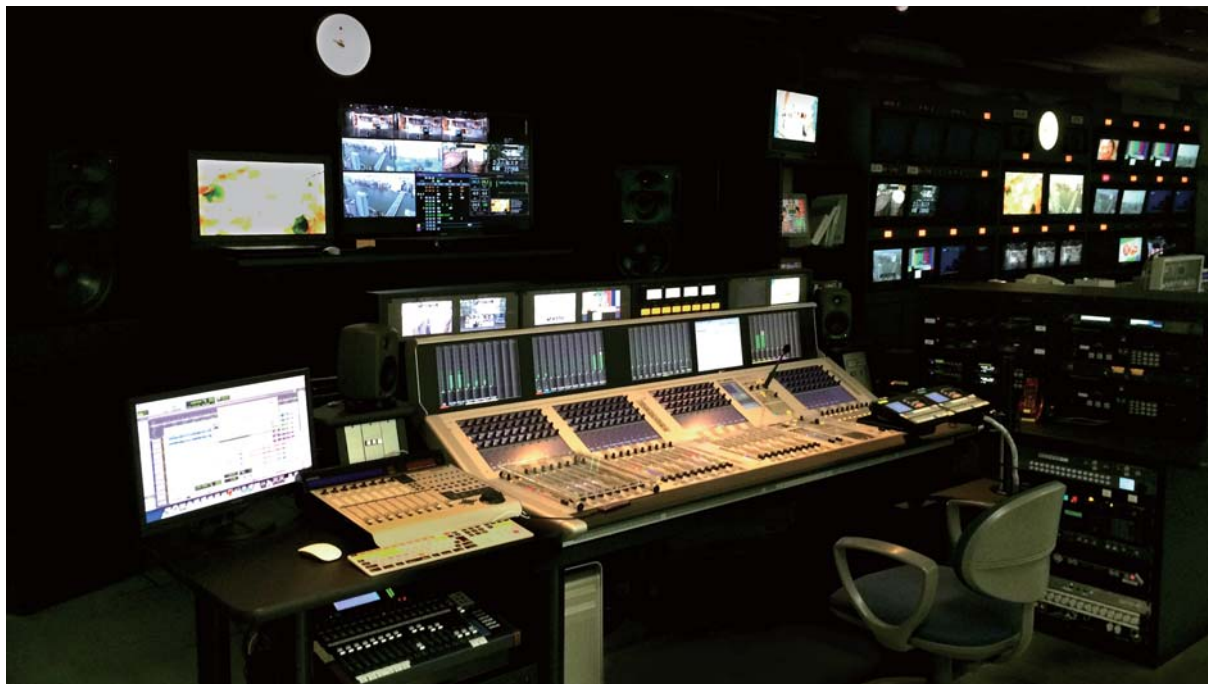


## VISTA 5 M3 ユーザーレポート

株式会社新潟放送 様

VISTA 5 M3 - 42

テレビサブをVISTA 5 M3で更新



株式会社新潟放送  
技術局 制作技術部  
鷲尾 徹

### 25年目の更新

テレビサブの旧アナログ音声卓はラジオ2SUB同様、社屋移転時に設備したもので25年間使用しました。言うまでもなく老朽化が進んでおり(というか限界を超えていて)、ノイズやガリなど日常の業務に少なからず支障をきたしていました。映像システムは7年前にHD化しましたが、音声は今回ようやく更新となりました。

### ステージボックスを採用

音声卓同様、既設のスタジオ回線も老朽化が進んでおり、今回の更新では、回線の張り替えも検討していましたが、費用もかかるため諦めかけていたところ、各メーカーの中で唯一STUDER様から、ステージボックス化して、旧回線をなるべく使わないシステムの提案を受けました。当然、HAが音源に近い分、音質は良いですし、基本的にはスタジオのセット裏に常駐して使用していますが、いざとなれば本社正面のイベント広場や、1Fロビー脇のラジオ第1スタジオでの収録時に持ち出して使用するなどのバリエーションも考えられるため、ステージボックス

案を採用することにしました。

### ストレスのない基本操作

音声卓更新にあたり、重視したことは、安定性、音質、操作性です。選定段階で、ラジオ2SUBの更新はVISTA 1を採用することが決まっていたため、VISTA 5は有力候補のひとつでしたが、それだけで決めたわけではなく、各メーカーの候補があり、それぞれデモを行いました。どの卓にもそれぞれ特徴があり、悩みに悩みましたが、選定期限の直前でSTUDER様にもう一度改めてデモをしていただき、そのデモが決め手となり、最終的には全員一致で決定しました。理由は安定性、音質、操作性においてすべて納得できたからです。VISTA 5シリーズは導入実績も豊富ですし、リリースからも時間が経っており、ある意味こなれている卓ですので、安定性や音質面では何の心配もありませんでした。なによりも操作性が非常にわかりやすく、ひとつひとつ入力されてくる音の、ヘッドアンプでレベルを決め→フェーダーに立ち上がってきた音にEQ、COMPをかけ→本線に音を出す→AUXに音を送る、といった一連の基本操作をストレスなく行えると感じました。当たり前のことかもしれませんが、日常オペレートする際に一番大事なことだと思います。結果的にラジオ、テレビとも同じ

VISTAシリーズとなり、実際に音声卓につく現場のミキサーにとっては操作に迷わないという意味でも良かったと思います。

### モニター棚まわりも一新

VISTAデスクを前提としたデザインで、映像モニター棚回りも同時に更新しました。マルチモニターを採用し、とても見やすく快適な環境になりました。また、本格的な音響調整を日東紡音響エンジニアリング様に行ってもらいましたが、これが非常に効果的で、正しく音を聴ける環境が整ったと感じています。音声エリアの色味は黒で統一し、落ち着いた感じになり、気分的にも良い音づくりに貢献していると思います。

### 稼働から10ヶ月

昨年12月の稼働から早10ヶ月ですが、現場のミキサーからは「直感的にわかり易いので慣れるのも早いし、慣れれば慣れるほど使いやすい。」と絶賛されています。当社のテレビサブは、夕方のニュースや情報バラエティの生放送、ナレーション入れやMA完パケ作業など、毎日フル稼働していますが、今のところトラブルが全くありません。やはり安定性に関しては抜群だと実感しており、私にとってはそれが何よりも良かったことと言えます。